

一人一人の個性だから

室戸市立羽根小学校

五年

前田

梨乃

私は以前テレビで、障害のために、上手に話せなくて字を書くのも苦手なAさんのことを見ました。

Aさんには、書道家になるという夢がありました。でも周りには、「字も書けないのに無理やろう。」

という人もいたようです。私は自分のことではなけれど、「人の夢をこわすなんて。」となぜか悲しくなりました。

その後、Aさんは、字の勉強をがんばって書けるようになりました。私はなんだか自分のことのようにうれしくなりました。そればかりかAさんは、いろいろな人と交流したり、友達になったりしたようです。そして書道の方も上手に書けるようになりました。大きい紙に、堂々と書いてみんなにひろうするくらいになっていました。

私は、どんな障害があっても努力すれば、必ずできるようになるんだと感じました。

その一年後、またテレビで「障害をもった天才書道家」とAさんが紹介されていました。

私の友達にも、ダウン症という障害があるB君

がいます。

初めて会った時、B君は一生けんめい私に言葉を伝えようとしていました。その時は、まだ理解できませんでしたが、何度も聞いている内に、少しずつ分かるようになりました。

そんな時、私は誰かに見られているような感じがしました。ふと周りを見ると、二人のおばさんがこつちを見ながら、何かを話しているようでした。よく聞いてみると、「あの男の子なんか変やね。」
「しやべれんがあよ。」

と言っているのがわかりました。
私は障害があるからと言って「変」と言われるのか不思議に感じるとともに「みんな同じ人間なのに、少しちがうからと言って変と言われるのはおかしい。」と思いました。

私達一人一人が顔や体もちがえば、能力や感じ方もちがうように障害があることも一つの個性です。考え方、やりたいこと、進み方、進む方向など人それぞれちがうのです。なぜ一緒にしなければならないのでしょう。なぜちがっているから排除されなければならぬのでしょうか。私は不思議でなりません。個性は一人一人がもっている大切なもの、大切にされるべきものだと思います。

障害がある人の立場に立って考えることのできない、自分の感じ方だけしか判断できないような人が、「変」と決めつけてしまっているのではないだろうか。

障害がある人が、そうでない人に比べてどのくらい努力をしているでしょう。それは私達にはわかりません。しかし、私達の何倍もの努力と苦勞をしていることは想像できます。

私は、今でも後悔していることがあります。

それは、B君とのことです。ある時、何人かの人がB君を見ていました。その時、私の心の中に「今B君に話しかけたら、みんなの視線が私に向けられるし、私も差別されるのではないか。」という不安な気持ちが出てきました。

「あの時差別を恐れず、勇気をもって話しかけるべきだった。」「B君にも何かしてあげられたのに。」などと後悔しています。

正しいと思っけていても、周りの状況で臆病になっけてしまうという自分の心の弱さが現れることはよくあるでしょう。だから私と同じような経験をした人もいるはず。だから後悔しないように、もっと勇気をもって正しい行動をとっていかなければならぬと思います。

私は、AさんやB君との出会いによって、障害

がある人への考え方が変わりました。
いじめや差別で傷つけられた心の傷は、なかなか
かいやすことができません。いじめや差別をした
人が、あとでいくら謝ってもいやせません。自殺
にまで追い込んでしまうこともあるのです。だから
からこそ、自分の言葉は慎重に使わないといけない
と思います。いらいらしていても使っていない言葉
とそうでない言葉はあるのです。
人間はみんな同じだということ、人それぞれ感
じ方や考え方、やりたいこともちがって、障害も
一つの個性であることなど、いつも頭の中に入れ
ておきたいです。そうすればいじめや差別という
ことは起きないと思います。
人にはそれぞれ夢や希望があるとありますが、
おたがいを理解し合い、助け合って、それぞれ
夢や希望の実現を応援していける世の中になって
いってほしいと思います。